



## ガリガリ君 E-mail 通信

令和 8 年 2 月 (第 208 号)

下水道既設管路耐震技術協会

今年も年明け早々島根県で強い地震が発生した他、各地で地震が多発しています。今月号では地震関係の情報を中心にお送りします。

### ○ 地震情報

1 月 6 日 10 時 18 分、島根県東部を震源とするマグニチュード 6.4 の地震が発生し、鳥取県境港市や島根県松江市などで震度 5 強を記録し、長周期地震動階級 4 が出されています。この地震で地盤の液状化現象が生じたようですが、鳥取県内、島根県内共に下水道施設の被害は報告されていません。水道については鳥取県の南部町で約 1000 戸、島根県松江市など 3 市で合わせて 43 戸の断水が報告されています。

この付近では、2016 年(平成 28 年)に最大震度 6 弱を記録した「鳥取県中部地震」の他、2000 年の鳥取県西部地震、1983 年の鳥取県中部地震、1943 年の鳥取地震など、比較的大きな地震が定期的に発生しています。

また日本国内では、前月 12 月 17 日から 1 月 16 日までの僅か 1 か月の間に、震度 3 が 24 回、4 が 10 回、5 弱が 1 回、5 強が 1 回と、併せて 36 回の強い地震が発生する異常な状況となっており、注意が必要なようです。

[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/ltpgm\\_explain/about\\_level.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/jishin/ltpgm_explain/about_level.html)

・・・「長周期地震動階級」とは・・・

最近の地震情報では、マグニチュードや震度とともに、「長周期地震動階級」が発表されているのを気付かれている方も多いと思います。まず、長周期地震動とは大きな地震で生じる周期が長い大きな揺れのこと、この地震動により高層ビルが長時間大きく揺れ続けることがある他、遠くまで伝わりやすいため、数百キロ離れたビルが大きく揺れることがあります。近年高層建築が増え、地震の規模は小さいのに高層階での揺れが大きく、家具の転倒などの被害の発生が危惧されることから、2019 年(令和元年)3 月から長周期地震動に関する観測情報の本格運用が開始され、2023 年(令和 5 年)2 月 1 日から緊急地震速報の発表基準に追加されたものです。

「長周期地震動階級」は、高層ビルでの長周期地震動による揺れの大きさが現在の震度では十分に表現できないため、ゆれの大きさを 4 つの階級に区分したもので、以下の内容となっています。

階級	人の体感・行動や室内の状況
1	揺れを感じる、吊り下げたものが大きく揺れる
2	ものにつかまらなと歩けない、棚から食器や本が落下する
3	立っていることが困難、大きく動いたり転倒する家具がある
4	這わないと動けない、固定しない大半の家具が動いたり倒れたりする

この情報を基に、ビル管理者への注意喚起やエレベーターの制御を行うことで、長周期地震動による被害の軽減が期待されます。(気象庁ホームページより)

## ○ 「南海トラフ巨大地震対策計画」が改定されました

国土交通省は 1 月 16 日、「国土交通省南海トラフ巨大地震対策計画」を改定しました。

今回の改訂内容は、昨年 7 月 1 日に変更が決定された「南海トラフ地震防災対策推進基本計画」の基本方針の変更で追加された次の 5 項目を加えたものです。

- ・「命を守る」対策と「命をつなぐ」対策の重点化
- ・災害関連死防止のための避難者の生活環境整備等の被災者支援
- ・複数の災害等への同時対応（複合災害対策）
- ・総力を結集した対策を推進するための多様な主体との連携強化
- ・地震防災対策の進歩や効果の定期的かつ継続的な把握

国土交通省は次の 3 巨大地震を対象に対策計画を策定しています。

- 南海トラフ巨大地震    ○ 首都直下地震    ○ 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震

**\*\*\* 協会からのお知らせ \*\*\***

## ○ 第 25 回定時総会の開催

第 25 回定時総会を下記により開催いたします。

- ・日        時：令和 8 年 4 月 24 日（金）
- ・会        場：コート・リオ 銀座東武ホテル
- ・総        会：16：00～17：15    ・意見交換会：17：30～19：30

会員の皆様には追って案内状をお送りいたしますので、日程の確保をお願いします。

## ○ 令和 8 年度施工管理者講習会・施工技術者研修会の受講者募集

令和 8 年度の施工管理者講習会及び施工技術者研修会の受講希望者を募集いたします。

申込資料は、令和 7 年度の会員名簿の連絡担当者宛に、2 月 4 日（水）に郵送いたしますので、本年度の受講申し込みを希望する会員は手続きをお願いします。

講習会、研修会の具体の日程、会場については一部未定ですが、今のところ下記の日程と会場を予定しています。

### ① 既設人孔耐震化工法・フロートレス工法

#### 1) 施工管理者講習会

実施都市	講習日	講習会場
名古屋	5 月 8 日	愛知県産業労働センター（ウインク愛知）
金 沢	5 月（15 日頃）	金沢異業種研修会館
東 京	5 月 19 日	ホテルラングウッド
福 岡	5 月（29 日頃）	栗原工業ビル

#### 2) 施工技術者研修

実施時期：6 月

会 場：日本ヒューム 熊谷工場

### ② 耐震一発くん

#### 1) 施工管理者講習会

実施時期：7 月

会 場：草加新里文化センター

2) 施工技術者研修会 実施時期：7 月（施工管理者講習会との同時開催）

会 場：(株)メーシック 谷塚事業所

通知が届かない会員や不明の点がありましたら、協会事務局（担当：荻原・オギワラ）までお問合せ下さい。 TEL 03-3437-6454

## ○ 下水道展 '26 東京へ出展します

今年の下水道展は下記により開催されます（写真-1）。

- 名 称：下水道展 '26 東京  
会 期：2026 年 8 月 4 日（火）～ 8 月 7 日（金）  
会 場：東京ビッグサイト 西展示棟  
応募小間数：1,300 小間（前回東京開催時 1,100 小間）  
併催 企画：
- ・今回は例年の東館のホールが確保できなかったため、西館 1 階の 1、2 と 4 階の 3、4 の階の異なる 2 会場に分かれての実施となります。
  - ・出展者のゾーン分けは、これまで ①設計・測量 ②建設 ③下水処理 ④管路資機材 ⑤維持管理 ⑥その他 ⑦一般 の 7 ゾーンでしたが、⑧ IT・DX ⑨ No Entry 管路診断 の 2 ゾーンが今回新たに加えられています。
  - ・企画としては例年通り、下水道技術情報研修会（ブースツアー）、テクニカル ツアー、出展者コンテスト等の実施が予定されていますが、特にブースツアーは全 8 コースと大幅に増やされています。



写真-1 下水道展開催案内

本協会も昨年同様 2 小間での出展としますが、今回も 3 小間以下のブースについてはブースの仕様が定められた「パッケージブース」での出展に限定されています。出展の詳細については、今後予定されている出展者説明会で明らかになりますが、ブースデザインや会場内の様子が例年とはかなり異なることが予想されます。

## ○ 第 30 回「震災対策技術展」へ出展します

2 月 5 日～6 日の 2 日間、「パシフィコ横浜」D ホールで第 30 回「震災対策技術展」が開催され、約 150 社・団体が 500 を超える製品・技術の展示が予定されており、本協会も昨年度に引き続き出展し、3 工法等のパネルと模型の展示、パンフレット配布等のほか、他の展示会でも好評な液状化によるマンホールの浮上実験を予定しています。

また会場では、2 日間に約 60 を超えるセッションが予定されており、全て「無料」で聴講できます。



写真-2 震災対策技術展開催案内

## ○ 会員名簿記載事項調査を行います

令和 7 年度会員名簿の作成にあたり、記載事項の変更の有無を調査いたします。変更のある場合は、お送りする調査票の記載事項を修正のうえ、FAX またはメールにて期日までに事務局に返信ください。

## ○ 今月の協会の主な活動予定

- 5・6 日 震災対策技術展
- 17 日 運営委員会、品質確保委員会

## ○ 最近のニュースから

■ 1 月 14 日、政府の地震調査委員会は、今月 1 日を基準日に再計算した日本列島周辺での発生が予想される、巨大地震の発生確率を公表しました。今回は次の 2 地震の発生確率が引き上げられています。

- ◇ マグニチュード 7.4 程度が予想される、日本海溝沿いの宮城県沖の陸寄りの地震の 30 年以内の発生確率 80%程度 ⇒ 90%程度
- ◇ マグニチュード 7.8~8.5 が予想される、千島海溝沿いの根室沖地震の 30 年以内の発生確率 80~90%程度 ⇒ 80~90%程度以上

■ 1 月 16 日、第 6 次「社会資本整備重点計画」が閣議決定されました。本計画は社会資本整備重点計画法に基づき策定されるもので、社会資本整備の羅針盤となるものです。今回見直しされた第 6 次計画は令和 12 年度までを計画期間とし、社会資本整備の羅針盤として次に示す 4 つの重点目標を掲げ、それぞれ目指す姿と実現に向けた進路を示しています。

- ◇ 活力のある持続可能な地域社会の形成
- ◇ 強靱な国土が支える持続的で力強い経済社会
- ◇ インフラ分野が先導するグリーン社会の実現
- ◇ 戦略的・計画的な社会資本整備基盤の整備を支える

### 編集後記

・日本列島が寒気に覆われ、大寒に合わせたように大雪による被害や影響が広がっています。またアメリカでも大雪の被害が出ているようです。今年度は 12 月末までに、大きな事故のあった前年度の 5 件を上回る 6 件の工事に伴う死亡事故がおきています。また前年度は 1 月から 3 月の 3 か月間で 3 件の死亡事故が発生していますので、これから年度末に向け工事の追い込みに入りますが、特に寒冷地や雪のある地域で工事される会員の皆さんは、現場作業や作業車で事故に留意して事故の無い様工事をお願いします。

・表紙の写真は、那覇市のビルの公道に接する敷地内に設けられた、「非常時用管路切換」と書かれた排水設備（バルブ？）です。那覇市の排水設備担当や管工事組合に問い合わせても、この設備には関与しておらず設置の目的や構造などの詳細な情報は得られませんでした。が、「地震などで下水管が使えなくなった場合に、ビル内の貯留槽などに一時的に排水系統を切り替えるための設備ではないか」とのことでした。建物の施主側で設置したものらしく、私も初めて見る設備ですが、非常時のバックアップ体制としてなかなか面白い設備で、今後の下水道管路の再構築の中で応用できそうだと感じました。